

実は危険と 隣り合わせ？

海の中の「ゴミ拾い」

文・写真

東 真七水

text & photo by Manami Azuma



岩の間に挟まったペットボトル

「スキューバダイビング×ゴミ拾い＝水中ごみ拾い」を専門としたダイビングショップ「Dr・blue」でゴミ拾いダイビングインストラクターを務める東真七水です。海底に沈んだゴミを楽しみながら回収し、水中ゴミ拾いをマリンアクティビティとして広める活動をしています。

危険生物がゴミのすぐそばに…

私は普段、楽しいゴミ拾いをモットーに実施していますが、今までに何度かヒヤリとした経験があります。活動を継続するためにも、今回は海の危険について共有します。まず知って欲しいのが、水中ゴミはゴロンと分かりやすく海底に転がっているばかりでなく、珊瑚に絡まっていたり、岩の隙間に挟まっていたり、砂に覆われている場合がよくあるということ。また、海には様々な危険生物が存在します。この2つの要素が運悪く重なったとき、大きな事故になるのです。

① 背後から凶暴な魚が突進

ゲスト様が珊瑚に絡まる釣り糸を解くのに集中していた

ところ、背後から凶暴で知られるゴマモンガラが、凄まじい速度で追いかけてきていました。慌ててゲスト様の手を引き、その場から離れました。産卵期に凶暴化し、うっかりその縄張りに入ると岩をも砕く歯で噛みつかれるのです。

② 珊瑚と釣り糸の上におニヒトデが出現

珊瑚から珊瑚に跨るほどの長い釣り糸を見かけ、バディと手作業で巻き取りを始めました。テンポよく取り除き、あともう少しというところで、そのサンゴの上におニヒトデを発見。少しでも接触すると猛毒に侵されるので、釣り糸をハサミで切り、途中までの回収にとどめました。



オニヒトデ

③ 岩の隙間からウツボが威嚇

大きな岩が連なっているエリアで空き缶を発見しました。手を伸ばして拾う直前、暗がりの岩の隙間をライトで照らすと、空き缶のすぐそばで大きなウツボの顔が見えました。噛みつかれる可能性があるがあるので、空き缶はそのまま

にしておきました。

上記のケースではその存在に気づき、上手く対応できましたが、少しでも注意を怠ると事故に繋がっていたかもしれません。ゴミに手を伸ばす前に必ず安全確認する必要があります。また生物以外にも、水中ゴミ拾いには様々な種類の危険が潜んでいますので、正しい知識を学んでから実施することをおすすめします。

水中ゴミ拾いは宝探し感覚で楽しめる、非常にやりがいのある環境活動ですが、最も大切な意識は、ゴミの回収の前に、安全第一であることを忘れてはなりません。

Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと2020年に沖縄に移住し、2022年、水中ごみ拾い専門店Dr.blueを立ち上げる。【Dr.blue ウェブサイト】
www.dr-blue.okinawa

